

和歌山病院

新ヘリポートにドクターヘリ

テスト飛行で搬送訓練も



ストレッチャーに載せ、患者をヘリへ運ぶ搬送訓練の様子

美浜町和田、国立病院機構和歌山病院(南方良章院長)は31日、このほど完成したヘリポートで、ドクターヘリの初テスト飛行を行った。

午前9時30分に日高町管内で災害が発生し、負傷者が多数発生。うち1人を県立医科大学附属病院ヘドクターヘリで搬送すると想定して実施。ヘリポートでは、本格運用を前に不備や不便、改善点がないか使い勝手を確認。加えて、日高広域消防本部も交えて、ヘリへ患者を乗せるまでの搬送訓練も行った。

午前9時40分に、消防本部が病院に、ヘリのランデブーポイントとして病院の

ヘリポートを使用要請し、午前10時の着陸予定である旨を連絡。ヘリは消防隊員らが周辺の安全管理に注意を払うなか、時間ぴったりに到着した。

ヘリ隊員らは、ヘリ搭載用のストレッチャーを押し、病院廊下脇の出入口に向かい、そこで待っていた患者を載せ替え、ヘリまで搬送。患者の乗せ換えは処置室で行うことが一般的との隊員のアドバイスから、病院職員らは、導線を再度見直すこととした。

搬送訓練の後、病院職員ほか、美浜町の笠野和男副町長と防災企画課職員、若野博一・町自主防災会連絡委員会委員長らも加わっ

て、ヘリを間近に見たり乗り込んだりしながら、ヘリ隊員から装備や役割、出勤現況などの説明を受けた。ヘリのパイロットや医師によると、和医大から病院までの飛行時間は10分。昨年の出動は400件。要請内訳は、交通事故による外傷が圧倒的で、ほか心臓などの循環器疾患が多いという。要請の多い場所としては、有田川町、有田市、岩出市、北山村、十津川村のほか、高野龍神スカイラインが上がった。

「ドクターやナースをいち早く届けるのが大きな目的。患者搬送については、限られた薬や器具で死なさない応急処置をして病院に連れて行く」と医師。県内は山間部が多く、物理的にも近隣住民の理解の面からも降りる場所がないとの現況も報告。「このようにドクターヘリを見学し必要性を説明することが理解につながるいい機会」と述べた。

病院では、平成25年末の循環器内科縮小に伴い、院内にヘリポートを設置する必要性は薄れたが、県や周辺市町の要望を受けて整備。去る4月の新病棟供用開始に伴い、使わなくなった旧病棟を解体した跡地に設けた。